

生活設計を「見える化」してみよう

生活設計表を作っている人はどのくらいいるのでしょうか。生活設計を「自分自身や家族の将来と
そのための経済的な準備」という経済設計に限定した場合、「生活設計を立てている」が38%、「生活設計を立てていない」が55%という調査結果があります（公益財団法人 生命保険文化センター 平成28年度）。

生活設計は、人生の夢や目標に近づいていくためや、課題の解決に向かっていくための第一歩であり、その後の暮らしの羅針盤のようなものです。よって、漠然としたものだといつの間にか方向を見失ってしまうかもしれませんし、細か過ぎても現実とのギャップに戸惑うことになりかねません。人それぞれ、自分自身でよく考えてみたり、家族とも話し合ってみたり、現実味があるか検証してみることが必要でしょう。

また、仕事や暮らしの環境変化、新たな課題の発生や解決などに合わせて臨機応変に見直して行く姿勢も大切です。夢や目標に前向きに堅実に進むことが一番ですが、節目や転機には進捗状況を柔軟に見直して軌道修正することも考えましょう。

そのためにも、生活設計はお金の動きと結び付けて「見える化」しておきましょう。具体的には、まず現状の年間収支をきちんと把握した上で、ライフイベント表や家計のバランスシート、さらにはキャッシュフロー表を作ってみるのです。何年先まで作るかは年齢にもよりますが、自分や家族がイメージしたい将来までにしましょう。ちなみに、生活設計作成の平均期間は、約18年です（生命保険文化センター調べ）。なお、これらの作成ツールや作成方法等は、「知るぼると 金融広報中央委員会」や金融庁、日本FP協会などのホームページに掲載されていますので利用してみてください。

人生100年ともいわれるようになった今、日々の暮らしも夢の実現も、お金の裏付けなしではかないません。生活設計を「見える化」することで、人それぞれの生き方や現実を踏まえて、自分らしい将来を楽観することができればいいと思います。

愛媛県金融広報アドバイザー
久保賢司